

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム はるか (2階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	平成24年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者1人1人の想いや、その人らしさを大切にしながら、個別の関わりを大切にさせて頂いています。ご利用者個々に、ご自宅への外泊や、昔馴染みのご友人の方との食事会や、地域行事への参加などをしながら、ご本人の要望をできるだけ実現するべく支援させて頂いています。

健康面においては、毎日のラジオ体操を行なっています。また、医療機関と相談しながら、健康、体力維持管理に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年11月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念を踏まえた事業計画を作成し、その意を共有しつつ事業の実践を行っている。また、施設理念をより実際の業務に浸透させていく為、法人施設全体で取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事に参加している(古紙回収は等)はるかで行っている行事にも声を掛け敬老会・感謝祭等では町内の多数の方に参加頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域包括支援センターとの情報交換を行いながら施設の利用者・地域の高齢者との暮らしに役立つ事がないか話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で情報交換を行い、事業計画、防火活動、利用者の生活ぶりの活動報告を行っている。又、会議にて提案されたアドバイスや助言について、取り入れ、改善を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員としてに市地域包括支援センター社会福祉士が加入、また施設広報誌を市介護保険課に送付、市消防との地域合同防災訓練の実施等		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布しています。また委員会では身体拘束に当たらないか検証し朝のミーティングや各会議等を利用し上司を交え確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員にマニュアルを配布し虐待防止の周知を行っています。日常の介護の中で見逃しが無いか職員間でのケアの状況の確認や上司への報告等全職員での虐待防止の取り組みを行っている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH利用者に対して成年後見人を選定し、支援いただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報保護等について、ご本人、御家族に十分な説明を行い、理解同意を頂いてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中に家族代表に加入して頂き各行事や運営等に意見を頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議等や役職会議、統括会議等でさまざまな状況の把握や運営に関わる提案等の検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し前期、後期にわたり、スタッフ個々の目標に関する支援のために面接を行い日常的なサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を取り入れる事により、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を行っています。又、年間事業計画に施設内研修や施設外研修を計画しており順次職員が研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、小規模多機能研修を積極的に参加し、ネットワーク作りを行っています。その他ケアマネ研修にも参加しています。又、はるかでの行事の際には他グループホームや包括支援センターにも協力を頂いている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面接にて、生活歴などの情報を頂き、関係づくりに活かしている。本人とゆっくり話をしながら、不安な事や要望を聞いている。また、総合的なアセスメントをしながら、必要なケアを実施しながら、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話すする場を設け不安なことや要望を聞いている。コミュニケーションを図り安心してサービスを受けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が大切にしている事を考慮しながら今、何が必要かを考えその方に合ったサービスを選択するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中での様々な状況について話し合い、相談し協力しながら本人と職員が協働する姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を伝えたり相談していくことで職員と一緒に本人の生活を支えていただけるようにしている。行事・外出、外泊などで一緒に過ごす機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等誰でも気軽に来て頂けるよう心がけている。友人宅へ遊びに行く、来て頂く、馴染みの理、美容へ行く。定期的なクラス会支援をしている。又、生活歴や会話の中から会いたい人や行きたい所への思いを汲み取り実現できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やレク活動等で利用者の関わり合える時間を作っている。関わりが苦手な人には職員が間を取り持つ、個々の気持ちを察しながら支援に努めている。 利用者同士も助け合えるように努めている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などでサービスを継続出来なくなった場合に、要望があれば次のサービスの相談、申請支援を行ったり、契約終了後も、相談ごとへの対応をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心として、アセスメントやモニタリングを実施。日々の生活の中で関わりを持ち、その方の意向の把握に努めている。把握が困難な場合にはケース会議にて検討		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴に関する情報を本人、家族から提供して頂き、大切な経験や出来事を把握して日々の生活の中で生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時モニタリングを実施し、職員、看護師と連携を取りながら一人ひとりが安定した生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当を決め、月1回のチーム会議で職員間の意見交換を行い、計画の見直しや検討を行っている。本人、家族、職員全体との意見交換を経て作成しています。又、随時モニタリングを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録や申し送りノート等を活用して職員間情報共有をしケアを行っています。また実践や見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族を含めた一人一人のニーズに対し、どうすればそれを可能にできるかを考え対応している。また、併設の多機能ホームや、居宅支援事業所と協力しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内での出来事、行事、今後の方向性等については地域運営推進会議や町内の回覧板等で情報発信して不定期ではあるがボランティアを招き支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続等、家族の希望を聞きながら、状態変化時は早目の受診が出来るよう援助している。適切な医療が受け続けられるよう、看護師と通じてかかりつけ医と本人の状態の共有に努めている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化の報告。通院後の受診記録、薬の情報を報告している。 状態変化があった時には、すぐに看護職員に相談できる体制を整えている。(休日であっても電話にて指示受ける)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が急病や容態変化で医療機関を受診、入院になった場合家族が医師と相談して以後の対応を考え、協働しながら治療できるように努めている。 入院時には家族に頼るだけでなく、職員も立ち会い治療方針の情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、その都度話し合いを持っている。家族と一緒に受診し医師を交えた相談を行っている。その際の報告書などにより情報の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡マニュアルに沿った対応をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。また日頃より地域の方と関わりを持ち深めながら災害時のご協力とご理解を頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の今まで培ってきたその方の人生や人格を尊重し、プライバシーを大切にしていくという意識を持って接している。常に言葉づかいを職員間でも注意し合いながら接するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう言葉かけや行動を共にしながら、利用者一人一人の目線に立ち、思いや行動表情、言葉から汲み取るよう意識しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活スタイルを大切に、習慣や本人のペースに沿える様希望を聞くなどしているが共同生活でもあり、必ずとはいかないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室へ行ったり出張美容室を利用しながら本人の希望に沿った髪形にしたり、季節や状況に合わせた服装等を一緒に考える等その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎ、盛り付け、ご飯作り等、利用者の身体・心身状況に合わせてながら役割を持って頂き職員と楽しみながら行っている。又、好き嫌いを考慮し、代替え食も常に用意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立で食事を提供している。水分摂取量を1日1500CC以上を目標とし、毎日一人一人の状況を記録しながら把握している。嗜好の考慮や歯科と連携し食形態も一人一人に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、歯磨き、義歯洗浄を実施し、清潔を保持している。身体状況に合わせて職員が介助して一緒に行っている。又、歯科衛生士と連携して口腔内の健康を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを把握しながら、食前、食後等に声かけやトイレ誘導を行っている。又、排泄の記録から水分や食事、下剤の調整を随時行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取(1日1500cc以上目標)と歩行、立ち上がりなどで排便を促している。又、毎朝牛乳を摂取して便秘の予防をしている。毎日のラジオ体操や散歩等、運動の機会も設けている。また食事、水分、排泄を記録し状況を把握し健康を保っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り利用者の希望に沿って入浴して頂いている。夜間には対応できていないが一人週2~3回は入浴して頂けるようにする為、ある程度、曜日や時間を決めさせていただいているが一人一人の清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操や歩く事などの運動をして頂くなど、一人一人の生活習慣を把握し、希望に沿って心地よく休める場所で休息や睡眠をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の効用や副作用を十分理解して症状の変化などにも気を付けている。服薬の際は、氏名、日付、時間などを確認し誤薬の無いように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその他の情報を基に、一人一人の得意な事を役割に持って頂き、生きがいに繋げている。希望に沿って買い物、ドライブ、飲食等の個別活動も行っている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人一人の思いや希望に沿って散歩や外出・外食・買い物等を個別又はグループで実施している。時にはご家族に協力して頂き外出を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はさせて頂いてなく、買い物等はGH立て替えしお払いさせて頂いている。支払いを心配されている方でも実際に払っているため、安心されている状況にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等への電話は自由にすることができる。その際、相手に事前に確認することの配慮を行っている。手紙のやり取りも自由に行うことができる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は整理整頓や清潔を保つ様心がけている。利用者個々で心地よさに違いがある為全員が満足しているとは言い切れないが可能な限り、利用者一人一人が混乱を招かないように配慮している。 又、季節感を感じることが出来るようホール、居室内に飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓を囲む空間と、ソファのある空間がある。その時々本人の思いや状況に合わせ、自ら過ごす場所を選択できるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の思い、意向に沿って仏壇や馴染みの家具を置いたり本人が気に入ったものを飾る等して安心し、又心地良く過ごせるよう配慮、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状況を見極め、必要に応じて手すりを追加設置したり家具のレイアウトを変化させるなど、ご自身で出来ること、やりたいことを安全かつ、自信を持って行える様工夫しながら支援している。		